

## 審議会等の会議の記録

|         |   |
|---------|---|
| 会議の名称   | 第1回 伊勢崎市総合計画審議会   |
| 開催日時    | 令和5年9月25日(月) 午後1時00分～2時40分  |
| 開催場所    | 本庁東館5階 第1会議室  |
| 出席者氏名   | <p><b>【委員】</b><br/>         長田委員、岡委員、小林委員、若菜委員、三浦委員、加藤委員、尹委員、大下委員、中西委員、羽鳥委員、大沢(啓)委員、備前島委員、山田委員、大澤(誠)委員、久保田委員、重田委員、赤尾委員、氏原委員</p> <p><b>【市出席者】</b><br/>         藤原副市長、下城副市長、三好教育長、小林病院事業管理者、木暮総務部長、細井企画部長、新井財政部長、丸橋市民部長、田部井環境部長、原田健康推進部長、田部井福祉こども部長、小島長寿社会部長、櫻井産業経済部長、田中農政部長、大橋建設部長、深澤都市計画部長、高木公営事業部長、新井上下水道局長、丹野消防長、小此木経営企画部長、太田会計管理者、鈴木議会事務局長、阿佐美監査委員事務局長、小林教育部長、高尾民生専門委員</p> <p><b>【事務局】</b><br/>         星野企画副部長、倉上企画調整課長、阿左美企画係長、北爪主査、田村主査<br/>         (総合計画等策定支援業務委託事業者)<br/>         有限責任監査法人トーマツ 宗和、松本、塚越、吉田</p> |
| 傍聴人数    | 6名  |
| 会議の議題   | <p><b>【報告事項】</b><br/>         (1) 第3次伊勢崎市総合計画策定について<br/>         (2) 基礎調査の結果について<br/>             ① 第2次伊勢崎市総合計画の効果検証<br/>             ② 第2期伊勢崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び改訂方針<br/>             ③ 定性・定量調査<br/>             ④ アンケート調査</p> <p><b>【議事】</b><br/>         (1) 長期ビジョン(基本構想)骨子の考え方について</p>  |
| 会議資料の内容 | 資料1 第3次伊勢崎市総合計画策定について<br>資料2-1 第2次伊勢崎市総合計画の効果検証<br>資料2-2 第2次伊勢崎市総合計画の成果・課題一覧  |

|                           |  |
|---------------------------|--|
|                           | <p>資料 3-1 第 2 期伊勢崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び改訂方針</p> <p>資料 3-2 第 2 期伊勢崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略効果検証シート</p> <p>資料 4-1 定性・定量調査報告書概要版 (SWOT分析)</p> <p>資料 4-2 定性・定量調査報告書</p> <p>資料 5-1 伊勢崎市市民アンケート報告書 (概要版)</p> <p>資料 5-2 令和 5 年度市民アンケート報告書</p> <p>資料 5-3 伊勢崎市高校生・大学生アンケート報告書 (概要版)</p> <p>資料 5-4 伊勢崎市高校生・大学生アンケート報告書</p> <p>資料 6 長期ビジョン (基本構想) 骨子の考え方</p>  |
| <p>会議における議事の経過及び発言の要旨</p> | <p>1. 開会</p> <p>2. 委嘱状交付</p> <p>3. 市長あいさつ</p> <p>4. 自己紹介</p> <p>5. 会長・副会長の互選<br/>(互選の過程については割愛)<br/>会長 : 大下委員<br/>副会長: 中西委員 にそれぞれ決定した。</p> <p>6. 諮問</p> <p>7. 会長あいさつ (大下会長)</p> <p>8. 会議運営に関する確認事項について<br/>(事務局より説明)<br/>【質疑応答】<br/>(特になし)</p> <p>9. 報告事項<br/>(1) 第 3 次伊勢崎市総合計画策定について<br/>(事務局より説明)<br/>【質疑応答】<br/>(特になし)</p> <p>(2) 基礎調査の結果について<br/>① 第 2 次伊勢崎市総合計画の効果検証<br/>② 第 2 期伊勢崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略の効果検証及び改訂方針<br/>(事務局より①②について説明)<br/>【質疑応答】<br/>&lt;委員&gt;<br/>優先度を決めるという話があったが、この 4 1 施策の中で優</p> |

先づけしたものはあるのか。

<企画部長>

この後説明する市民アンケートで4-1の施策について重要度・満足度を伺っている。その市民アンケートの結果を参考にしながら第2次伊勢崎市総合計画の4-1施策について検証を行っている。個々の施策については、具体的にはアクションプランへの反映となると考えられ、また改めて議論していただく機会を予定している。

<委員>

今の話では、市民のアンケート結果で優先度を決定しているというように取れるがその認識で間違いはないのか。

<会長>

基本的には4-1施策はどれも重要と位置付けられている。従って、どれも平等に検討をする必要がある。その中で、市民の意識を加味していくものである。そういう認識で問題ないか。

<企画部長>

その認識で問題ない。

③ 定性・定量調査  
(事務局より説明)

【質疑応答】

～事前質問について質問要旨説明及び回答～

<環境部長>

(質問要旨)

環境問題で取り沙汰されるマイクロプラスチックへの取組姿勢や実施策等今後の活動の方向性はどの辺りに掲載されているか。

(回答)

今回審議している件は、本市を取り巻く外部環境と本市の特性を分析するものであるため、本市の取組や方針に関しては記載されていない。本市の取組や方針についての具体的な議論は今後の審議会でも議論していただくことを予定している。参考までに、第2次伊勢崎市総合計画後期基本計画においては、ご質問いただいたマイクロプラスチックに特化した項目はないが、プラスチックの再資源化を推進することを記載している。

<委員>

資料4-2、定量調査において春日井市を入れた理由は何か。

<事務局>

人口規模が似ており、外国人が多いなど伊勢崎市と類似点が

多いため入れた。

<委員>

SWOT 分析を行う理由は何か。どういう意味があるか。

<会長>

SWOT 分析は、基本的に企業の経営分析を行う時に用いる。その時に定性的に強みや弱みを分析するだけでは客観的に強み・弱みを捉えられないということがある。そこで定量的な分析を行い、さらに S・W と O・T をクロスすることにより、客観的な戦略を導くことができる。これが SWOT 分析を行う意味である。本市の分析においても定性・定量的に分析しているため、複合的に分析することができることから、総合計画の策定に生かすことができると考えられる。

④ アンケート調査  
(事務局より説明)

【質疑応答】

～事前質問について質問要旨説明及び回答～

<事務局>

(質問要旨)

市民アンケート調査について配布数 2, 000 人に対して回答数 545 人とのことであった。伊勢崎市の人口に対して、この回答率は妥当か。再配布あるいは回収する工夫など必要ではないか。

(回答)

一般的に統計学上有意と考えられるために必要な回答数、約 400 人を上回っているため、この市民アンケートの結果は市民全体の意識や実態を把握するに十分有効であると考えられる。したがって、アンケートの再配布等は予定していない。回答率を向上させるために、オンラインフォームでの回答や広報紙への掲載により周知するなど、回答手段を複数用意するなどの工夫を行い、多くの市民から回答が得られるように工夫した。

<藤原副市長>

「回答率 27.3% が低いのではないか」という意見については、市として市政に関心を持っていただく必要があると考えており、引き続き回答率の向上に取り組ませていただく。

アンケート結果については、得られている回答数で統計学上問題のないものとなっているため、今後議論していただく際に活用していただきたい。

～事前質問について質問要旨説明及び回答～

<都市計画部長>

(質問要旨)

都市基盤分野の総括において、『コミュニティバスに加えて

オンデマンド交通の実用化などが求められている』とあるが、実用化の道筋はどの程度たっているか。

(回答)

令和4年度に行ったデマンド交通事業の近隣市町への視察等を基に交通事業者や学識有識者の意見を取り入れ事業の基本的な考え方について令和5年5月の伊勢崎市地域公共交通会議で協議していただきました。事業の基本的な考え方につきましては、1つ目として利用者が利用しやすいデマンド交通であること、2つ目としてタクシー事業者等民間の公共交通事業者への影響を最小限にすること、3つ目としてコミュニティバスあおぞらと連携し、利用者の利便性向上を図ることを念頭に検討した。具体的には、民間タクシー業者と連携し、市内在住の高齢者・障害者を対象に市内の移動においてドアトゥードアで移動していただく手段として検討している。

<委員>

高校生・大学生アンケートについては、市内に通学する学生の他に、伊勢崎市内から伊勢崎市外に通学している学生の意見の聴取が必要ではないかと考えている。そのような学生を把握することは難しいとは思うのだが、対象の学生に対してアンケートやヒアリングは行っていないか。

<事務局>

今回はご指摘いただいた対象の学生への調査は実施していない。理由としてはご指摘のとおりであり、対象の学生を把握し、アンケート等の依頼を行うことが難しいためである。

<委員>

市民アンケートと高校生・大学生アンケートにおいて対象者が重複していないか。

<事務局>

対象者が部分的に重複しているが、双方のアンケートの質問項目が異なるため、重複していてもそれぞれに活用が可能である。

## 10. 議事

(1) 長期ビジョン（基本構想）骨子の考え方について  
(事務局より説明)

【質疑応答】

<委員>

ミッション・ビジョン・バリュー（以下、MVV）で計画を定めるのは企業が戦略を定めるときに活用するフレームであり、自治体においてそれを活用するのは革新的である半面、不安もある。自治体においてMVVのフレームで計画策定する場合にはビジョンにあたる部分が最も大切だと思っている。3ページの図でMVVを定義した図があるが、少し民間寄りの説明になって

いるように感じた。また、今回の伊勢崎市の総合計画においては「伊勢崎市としてどのような市になっていきたいか」を決定するものであるので、5ページの「市の組織として目指す姿」という表現は「市全体として目指す姿」という表現にした方が良いのではないかと思う。こちらについては、具体的な案として「将来都市像」とあるので問題ないと思うが、今後策定を進める際には注意していただきたい。

<事務局>

いただいた意見のとおり、「伊勢崎市役所としての組織」ではなく「伊勢崎市の社会全体」として目指す姿を意味している。今後、誤解を与えない様に表現の仕方を注意していきます。

#### 11. その他

<事務局>

この後、15時より同会場において、早稲田大学名誉教授の北川氏を講師に外部有識者ヒアリングを開催する。隣の会議室を控室として用意しているため、委員の皆さまは、一旦ご退室いただき、控室で待機していただきたい。会場の準備が整い次第、改めて案内させていただく。

第2回の外部有識者ヒアリングは10月23日（月）の午前10時から同会場で開催する。

#### 12. 閉会